



たくさんの方に支えられて



毎日バスを利用し通勤しています☆

足羽ワークセンターのケアホームを利用されているAさん。平成22年12月末頃から就職に向けた実習の話が出ました。しかし『リウマチで手が思うように動かないから就職は難しいのではないか』『人間関係に自信がない』などたくさんの不安を抱えていました。

それでも『就職したい！』という希望を持ち続けていたAさん。長い実習を乗り越えて、晴れてコンビニ等の店頭で陳列されるおにぎりを作る会社に就職することができました。

今回は、Aさんの就職への挑戦の様子を紹介します。

就職に向けてスタート


実習していくにあたって、外部の方からの専門的な支援も必要であるため、福井県障害者職業センターのジョブコーチ支援事業(※①参照)を利用し、Aさんの就職に向けての支援が始まりました。

事前の話し合いの中で、Aさんの良い面と課題がいくつかあがりました(※②参照)。

実習が始まってもまず課題となつたことは、リウマチで両手の変形してしまつていて、作業のとき使用する大きめの手袋を、

※②

課題	良い面
<ul style="list-style-type: none"> ● 作業着の着脱困難 ● 自信が持てない ● 職場の方との関係づくり ● 人の言葉を重く受け止めて自己嫌悪になる ● どこまで作業が可能か 	<ul style="list-style-type: none"> ● 挨拶、返事がとてもいい ● 感謝の気持ちが言える ● 丁寧に仕事をする



※① 障がいを持った方がスムーズに一般企業へ就労できるように、支援計画に基づきジョブコーチが職場に向いて直接支援を行う事業。

作業が変わるごとに交換するのに時間がかかることでした。

その課題に対し、密着し
やすい手袋をまず素手には
めることで、スムーズに交
換ができたため、会社側に
この方法を提案していきま
した。会社の方も、苦勞して
手袋を交換している場面を
見ていたため、理解して下
さり提案した方法を取り入
れて下さいました。

Aさん自身も、会社の方
のやり方を見て、何とかし
て自分自身の体で覚えてい
こうと、手先を駆使しなが
らも努力していききました。
実習を重ねていくにつれ
て、このような、一生懸命に

仕事を覚えようとする姿が
たくさん見られるようにな
りました。

しかし、初めてのことや
苦手なことをするときには、
自信が持てないためか「難
しい。できない」とすぐに諦
めてしまう姿が出てきまし
た。その都度、本人には『初
めてのことは、回数をこな
すことで身につくこと・最
初に比べると上手に作業が
できていること』を伝えて
いききました。

また、会社の方からも「一
生懸命やっている姿をいつ
も見ていますよ」という言
葉をいただき、Aさんは少
しずつ自信をもって仕事に
取り組むことができるよう
になっていきました。

念願叶って。。

数か月が過ぎ、Aさんか
ら積極的に会社の方に質問
をしたり、作業スピードも徐々
に速くなっていったりと良

い変化が見られるようになって
いきました。また、作業
が間に合わないときは、従
業員の方からサポートして
いただいたり、本人がわか
りやすいように作業道具に
名前を書いてくださった
と、会社内のサポートも増
えていきました。

このようなAさんの、一
生懸命に仕事に取り組む
姿を会社側は認めてくださ
り、平成23年5月1日に正
式に雇用されることにな
りました。

現在、週に約1回のペースで
ジョブコーチの方が支援に入っ
てくださっています。職場の方
から言われたことに対し自己
嫌悪になること・変更事項に
対応するのが難しいことが現
在も課題としてあります。
就職して支援がそこで終わ
るのではなく、就職後も定期
的に訪問し、本人の状況を確
認していくことが大切です。ま
た、このことは、足羽ワークセ
ンターでも力を注いでいるこ
とです。

今後も、このように他機関
とのつながりを大切にし、利
用者の方の頑張りを支えてい
きます。

みんなの広場

～職員紹介～

足羽ワークセンターの
職員の間で現在ブームになっ
ているもの、それは「マラソ
ン」です。

1人で始めたマラソン
の輪が、2人、3人と増え、
現在は男性6名・女性1名
の「足羽走ろうの会」という
大きな輪に成長しました。

福井駅前マラソン、丸岡
古城マラソンを完走し、現
在は10月の福井マラソンに
向けて、オフの時間に走り
こんでいます。興味のある方
ご一緒にいかがですか？



職員が悩みを聞き相談にのります



「たくさんの方に食べてもらいたいです！」と意気込みを見せているAさん



第6回坂井市
古城マラソン完走☆